関東合同労働組合本部一般報告

はしがき

昭和四年度の本組合の一般活動は、各部報告並に理事会記録に明記せるが如く、多事多難の年であった。

本組合は既に星霜此処に五年を経、組合闘争史上一段と光彩をそへた。然し本組合の労働組合組織の根本主義たる産業別大労働組合の建設は、未だ結成の端緒にすらついてゐないが、視野を廣く之を見れば、司厨同盟、郵船同友会が日本海員組合に合同し、石川島自彊会が横浜ドック工信会等と武相聯盟に合同して造船工の関東大結成を達成しつゝあるが如き、或いは全国的に大都市の重要事業の労働者の組合が續々として結成されつゝあるが如き、必ずしも我等の希望がさ[illegible]れない状勢ではない。

然し本組合の発展が結果に於て、之れが理由は、組織部報告に明瞭なる如く、[illegible]方面[illegible]支部を独立せしめたこと、新宿運輸支部等を日本運輸労働組合に加盟せしめたるに存し、他方財界不況の波動で破綻した関係工場が比較的に多かったことにある。然しそれにも係らず、組合員